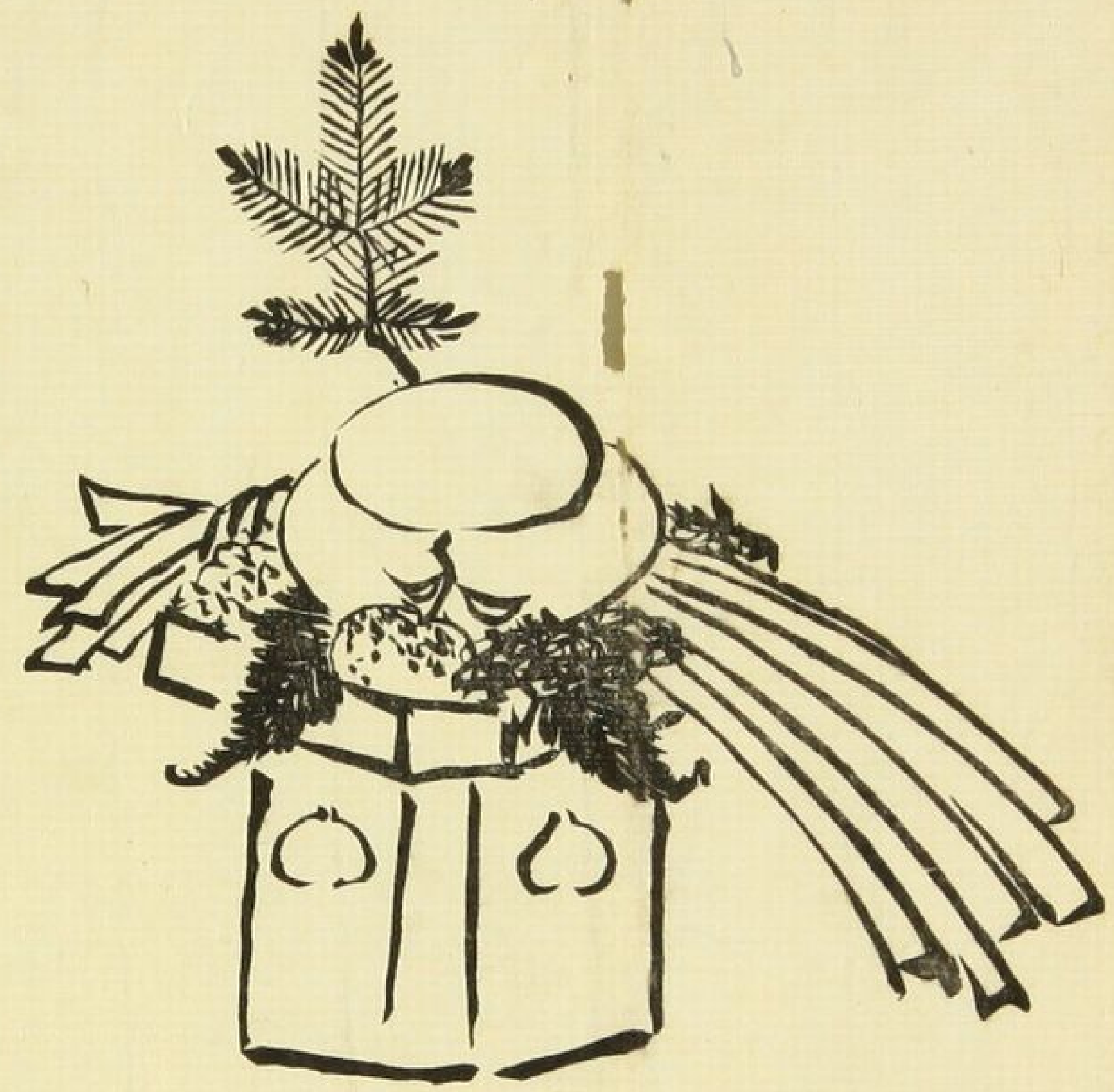
安永六酉

尾蓬莱湖



歳首

一夜明ても宗匠の跡その
家も栄ゆる千代ぞめでたく　八百居　竹窗

春立門や風ゆるやかに空の寿

今年の梅古木に暖や福寿艸　左谷

若水に初鶏の声も添けぬ　三宇

門松の緑新たに春なる哉　鳥洞

新法師やめでた泰延て初日かな　里京

大空や新たなる春ぐて出　鳥紅

若草や露ゆるく吉報　右也

子供らも七種の声へや春の音　左計

梅ふくも鶯やうけて若菜かな　大路

福寿草鶯や世界へやうらら　南呂

初春の風や春をむかへて松の枝　鶯江

まれ家に洗ひ給ふ風呂　鳥洞

年の智恵と思ふこれ　宇江

詩に慣れ身を辛うし和らげ　里京

身伸びしよ砂も禄ぢむく　鶴紅

月も去年ぞ春なり鐘も鳴る　左計

気も踊りなお祝や不敷子　南呂

素麺と小豆吸し喰仕舞　右也

うらふも銀の小くひ亀丸　三宇

隠居く夜も明け日の来て　左谷

様相の伝へ人喜お祝も　大路

むかしく南江坊の床飾　南

是や人さよりもやうらう気の婦女節　調

節分年もしく読く楽しき　江

晦日とて又いれても屋んの国　京

年内へする谷越の払く　紅

なお部ぬ新しく門の松竹を立まり　計

ぐう待くやうふ酒の乃酔ひ　呂

元日寿く元日のちうそうと　也

余段のが帰りへこちの宝船も　宇

わりあふ始めての塚忠崇　谷

濡りも踊うひ座のある祝ひ　路

投入れの花も千秋は自然飾　江

恰子のれは東風のたより　計

[illegible]